## 研修内容

(1) 講義「地域を知り 防災を考える」 静岡大学防災総合センター 牛山素行 教授



豪雨災害の調査から得られた被害の実態と、地 域を知ることの重要性について講義をいただいた。

「人的被害を減らすためには、素因(土地の性質)を知ること、避難を画一的にとらえないことが重要である。

高齢者の被害は多いが、要援護者である高齢者が亡くなるのではなく、ごく普通の高齢者が亡くなっている。注意を向けるべきは、普通の高齢者であり、早期避難などを呼びかけることが重要。」

(2)講義「防災・減災と男女共同参画」 (特活) N P O 政策研究所 (元・神戸新聞論説委員) 相川康子 専務理事

「防災を、復旧復興までの長いスパンで 考えると、女性を含め、様々な主体の参画 が必要であることがみえてくる。

避難所に逃げるだけが防災ではない。避難所に行けない人・行かない人への対策が必要。災害時要援護者に対する支援は避難支援だけではない。安全な自宅に住んでもらう、心身に負担のかからない自宅避難等の可能性を探る。



家族や地域が変化してきている。新たな共助を模索する必要がある。」

(3)講義「防災情報の基礎知識と利用」 松江地方気象台 岸本正 次長



自主防災活動を行うために必要となる、 異常気象時に発表される各種の気象情報 の意味と、その入手や利活用について解説 した。

## (4)講義「地域防災の進め方」山口大学大学院 瀧本浩一 准教授



「防災とは『災』を知り、『防』を考えることが重要。このためには、

- ①地域の災害を知り、考え、防災観を養うこと。(どんな災害がおこるのか、自分たちの地域にも起こるのか)
- ②その上で災害に備え、対応する。 地域を『面』で捉えて理解し、次に

『時間』の流れを考え、それを実働訓練で検証していくことが大切。」

(6) 演習「まち歩き・災害図上訓練(T-DIG)」 山口大学大学院 瀧本浩一 准教授 NPO法人ぼうぼうネット 山﨑隆弘 事務局長 ほか

参加者は、6 班に分かれてまち歩きを行った。その後、地図を囲み、白図に地域やハザードマップの情報を書き込むことで『面』を確認し、風水害と地震のシナリオで『面』と『時間』 を考えた。







